

8. 乳腺腫瘍患者における乳腺症の FDG-PET

宇野 公一 今関 恵子 内田 佳孝
 波多野 治 松野 典代 (千葉大・放)
 吉川 京燦 (放医研)
 今井 康則 (鹿島労災病院・放)

^{18}F -FDG (FDG) を用いた PET で、われわれは乳腺症に FDG が集積することを経験した。実際に乳腺症に FDG が集積するかどうかを検討するために、44 症例の乳腺腫瘍患者を対象とした。乳腺腫瘍と反対側の乳房を超音波 (アロカ社 10 MHz プローブ) で正常、中等度、高度の 3 段階にエコーパターンを分類した。FDG は約 148 MBq (4 mCi) 空腹時静注して 1 時間後に島津ポジトロンカメラで撮像し、12 mm×12 mm ROI を乳房部に設定し DAR を求めた。年齢との関係では乳腺症の高度なものほど平均年齢が低かった。また FDG 集積は乳腺症の高度なものほど強いことが分かった。したがって乳腺症が高度な症例は乳腺腫瘍の良悪性の鑑別を集積の強さで判定する場合、乳腺症への集積を考慮する必要がある。

9. ^{11}C -メチオニン PET による肺癌の放射線治療前後の評価

古賀 雅久 安川 朋久 吉川 京燦
 吉田 勝哉 (放医研)

10. 腫瘍における $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI の早期動態について

成尾孝一郎 内山 真幸 守谷 悦男
 森 豊 川上 憲司 (慈恵医大・放)

心疾患を伴った悪性腫瘍 8 例、良性病変 2 例を対象に、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI シンチグラフィを行った。静注直後より 15 分後まで早期動態画像を撮影し、30 分後より SPECT 像撮影を行った。以下の 3 項目につき検討した。①早期動態画像上初めて病変部が出現する時間。②早期像および SPECT 像における T/N ratio。T, N は病変部、正常領域の count/pixel。③TAC により病変部早期の clearance の測定。結果は、悪性腫瘍は、良性疾患に比べ、①で早期に出現、②で早期像、SPECT 像ともに高値、③で washout が遅延する傾向を認めた。②の T/N ratio は、

早期像より SPECT 像の方が、良悪性の差はより明瞭であった。しかし、早期像でも良、悪性の差を認め、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI シンチグラフィ早期像は、良性病変、悪性腫瘍鑑別の指標となる可能性が示唆された。今回の study では、良性病変は 2 例と少なく、今後症例を重ねて検討をする必要があると思われる。

11. ガリウムスキャンにおけるサルコイドーシスの活動性の評価

植田 琢也 宇野 公一 波多野 治
 太田 正志 松野 典代 内田 佳孝
 (千葉大・放)
 今井 康則 (鹿島労災病院・放)

12. 内山 曉君をしのんで

有水 昇 (都立医療技術短大)

13. ^{123}I -BMIPP 投与後に心筋血流像が撮像された不安定狭心症の 2 例

小林 秀樹 松本 延介 日下部きよ子
 (東京女子医大・放)
 細田 瑳一 (同・循内)

ダイナミック SPECT を用いて、 ^{123}I -BMIPP 心筋像を撮影した。不安定狭心症の 2 例は、 ^{123}I -BMIPP 投与後 2-5 分で撮像した SPECT 像が、安静時 ^{201}Tl 心筋シンチグラフィに類似した所見を呈した。30 分後に撮像した SPECT 像では、おのおの左前下行枝領域および左回旋枝領域に、 ^{123}I -BMIPP の欠損を呈した。

ダイナミック SPECT を用いて、 ^{123}I -BMIPP 投与直後の心筋像を撮像することで、心筋血流イメージの得られる可能性が考えられた。

^{123}I -BMIPP 1 回投与による、心筋血流と脂肪酸代謝の同時評価が期待できる。